

平成22年度 第2回 CCC 芸術系グループ運営委員会 議事概要

- I 日時 : 平成22年8月23日(月) 13時30分から16時まで
II 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室
III 出席者: 有馬委員、高田委員、井澤委員、小川委員、宮田委員
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、渡邊職員

IV 議事概要

1. 検討内容

前回の宿題である、各委員の ICT 活用実践事例および授業モデルの紹介。

①授業を成立させるためには最低限の共通知識を持たせることが必要。ICT を用いてできる美術教育にこの知識教育が最も適している。

実際の大学等での授業事例として

- ・ グリザイユ技法 ・アッサンブラージュ ・うらやす市民大学講座
- ・ アートって何 ・メディア論

を紹介。プレゼンテーションソフトを活用。

実技授業などでも視覚的な事例紹介のため、常時 PC 等を用意。膨大な授業資料をアーカイブしている。最近では i Pad を有効に活用する。実技授業中に資料提示だけではなく、制作上の問題点についての指導にも役立ててる。

②知識伝達型授業における web 利用。現代における作家、クリエイター情報などは評価の固まっていないものが多く、on time の情報が重要である。

- ・ プレゼンテーションソフトを使った技法上の説明教材。
- ・ 学生による、プレゼンテーションソフトを活用した制作発表。

制作→PP 発表画面をデザイン→発表力をつける。と多面的な教育効果をねらう。

③教材サイトをいくつか紹介。「広報広告演習の授業ブログ」ほか。

④ 学士力到達目標3の到達度②「市民生活や組織との関係のなかで作品生活を通じて、社会での機能性、利便性、生活の質向上などの実現に取り組むことができる。」を実現するための学習プログラムの紹介。いくつかの授業科目を連携し、前述の授業目標実現のための授業ツールおよびコミュニケーションツールとしてブログを活用。

以上、各委員の実践例等が美術・デザイン教育における学士力の考察において、どの「到達目標」「到達度」に該当するかを確認。

到達度3-②「市民生活や組織との関係のなかで作品生活を通じて、社会での機能性、利便性、生活の質向上などの実現に取り組むことができる。」と、到達目標1「社会、歴史、科学などの観点から視覚芸術表現を理解できる」の到達度①「視覚芸術表現が社会にもたらす役割(機能・社会的価値)を理解している」と到達度③「視覚芸術表現・造形表現の歴史を概観できる」に相当するであろう。

これらの授業事例をふまえて、有効な情報教育とは何か。

* 5年後、10年後を見越した先進的な授業モデルを提言したい。

* 情報の双方向性を生かしたプランが望ましい。

実践例としては、情報の双方向性を生かしたものとして、④授業例が好例として指摘された。

2. 次回までの宿題

前述されたような、先進的な授業プランを用意する。

具体例。もしくは仮定の授業プラン。

学士力の考察における到達度について具体例を示す。

V 次回の開催日程

明確な日程は示されなかったが、あまり間はおけないことから10月中に予定すること。
事務局より日程連絡で調整する。